

謝 辞

厚生労働大臣表彰受彰者八十八名を代表いたしまして、一言お礼のご挨拶を申し上げます。
この度、社団法人日本臨床衛生検査技師会法人化四十五周年等を記念して栄えある厚生労働大臣表彰を受彰いたしましたことは、私ども八十八名にとりまして身に余る光栄であり、その喜びとともに、関係各位の皆様篤く御礼を申し上げます。

私どもの年齢は些か異なりますが、多くは臨床検査技師として三十年以上に亘り医療機関や公衆衛生分野で業務に励んでまいりました。私どもが技師になった頃、日本経済は高度成長期に突入し、その経済に伴うかのように医療技術も目覚ましい発展がありました。その中において技術精度の向上や、地域保健事業の一環とした衛生思想の普及と啓発に、技師会活動を通して微力ながら力を注いでまいりましたことがこの度評価を受けたものと、重ねて感謝を申し上げます。私ども臨床検査技師の業務範囲は広く、検体検査は基より、生理機能検査や超音波検査を代表とする生体検査、病理学的検査、公衆衛生と多岐に亘っていますが、目指すことは健康に、そして安心して暮らせるように地域住民や広く国民へ、安全で質の高い医療技術を提供することに他なりません。

昨今、目覚ましい進歩を遂げている遺伝子解析技術やプロテオミクス技術はその応用として医療・保健事業領域においても様々な検査に応用されており、がん治療や難治疾患に対するテーラーメイド医療、感染症診断、また医療施設内感染の防止対策上の検査など、その信頼性においても私どもの高い精度によるところが大きいと自負しております。

また、本年四月から新たに開始される特定健診においても精度の高い検査データが必要となりますが、一三〇名以上の糖尿病療養指導士の資格を持つ技師が、実際に全国の医療現場で勤務している現状を踏まえ、医療・保健行政に今一層の協力をしてまいれる所存でございます。

さて今後の課題ですが、現在、医療・公衆衛生の分野で勤務する技師は、女性が六割以上を占めており、今や多くの女性がライフワークとして日常業務に、研究にと励んでおりますが、特に医療現場での二十四時間体制や二交代制勤務が進む中で、子供を持つ女性の勤務が厳しい状況にあります。

女性特有のパワーは医療技術の場においても必須であり、少子化対策の一環として子供を育てながら仕事や勉強が続けられる環境を整えて行きたいと思っております。

私どもは本日の受彰を契機に、更に新しい学問や技術を学び、実践し、伝えて行くことに、より一層の努力をして参りたいと心を新たにしております。

どうか今後とも、厚生労働省をはじめとする関係各位の特段のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。甚だ簡単ではございますが御礼の言葉にかえさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。
平成二十年二月八日

受章者代表 埼玉医科大学総合医療センター 原島典子



当日は、記念講演会、記念祝賀会も盛大に開催された。
記念講演会は、“女三四郎”と呼ばれ、今日の女子柔道ブームの火付け役ともなった、全日本柔道連盟女子強化委員である、武蔵大学教授山口香氏をお迎えし、「小さなわたしでも“やれば”できた!!」をご講演いただいた。

氏が柔道をはじめた小学校1年にさかのぼり、13歳で優勝されてから10連覇を達成した話などを話された。氏は、現在は武蔵大学で身体運動学を教えるかたわら、筑波大学女子柔道部監督として後進の指導にあたられている。当会にも女性部会が設置されていることもあり、女性の視点から物を見るという、まさに時代にマッチした講演会となった。

次いで、会場を移し、記念祝賀会が盛大に行われ、大いに盛り上がりのある記念行事となった



**記念講演会
祝賀会盛大に!**